

大学は高校までの教育を受けた人が、本格的に学問に取り組む場です。皆さんは入学した福岡大学で何をどう学ばよいのでしょうか。

高校生までとの違い

「生徒」から「学生」に

大学で学ぶ人を「学生」と呼びます。大学に入学した皆さんは、中学・高校時代の「生徒」ではなく、大学で学ぶ「学生」になったことをまず自覚しましょう。「生徒」とは教えを受ける人のことをいうのに対して、「学生」とは自ら主体的に学問をする人というのです。例えば、福岡大学には出席管理システムがありますが、高校までのように授業で先生が出欠をとるのではありません。皆さんは授業開始前に教室のセンサーにIC学生証を自分でかざして着席します。皆さん自身が自分で大学での生活を管理するのです。

これまででは、まじめに授業を聴き、テストでよい点をとった人はよい「生徒」として評価されてきたと思います。しかし、大学では、講義をただ黙って聴いているだけでは本当の「学生」とはいえません。受身に講義を聴くのではなく、自ら積極的に学び取る姿勢で講義に出席して勉学に努めるのが本来の「学生」の姿です。

大学にはゼミナールという授業形式があります。これは講義を聴く形式ではなく、担当教員の専門分野に関心をもつ学生の皆さんが、教員の指導のもとに自ら調べて報告したり研究発表をしたりして、少人数で学ぶものです。まさに大学ならではのものでしょう。

一人ひとりの目的にあわせた勉学

これまでの皆さんの勉学を振りかえってみると、中学・高校まではそれぞれ「高校進学」や「大学進学」といったクラスメイトと共通の目標に向かって勉強してきた人がほとんどです。大学でも、「卒業して就職する」という目標は多くの皆さんに共通したものかも知れません。しかし、どの企業に就職してどんな仕事をしたいかは人それぞれです。企業で製品開発に従事したい人、販売の仕事につきたい人、あるいは教員や公務員になりたいという人もいでしょう。皆さん一人ひとりが何を指すのか、そのためには大学在学中にどんな目標をもって何をするのかはそれぞれ異なります。しかも、これは皆さんの今後の人生に直接かわるきわめて大きな問題です。ですから、確かに大学生であることは長い人生の中では短い期間ではありますが、大学で学ぶことは高校までとは比較にならないほど重要な意義をもっているのです。

皆さんが指すものが異なれば、大学で学ぶものも一人ひとり違ったものになるはずです。福岡大学では、皆さんの将来への希望を実現するために必要な、数多くの授業科目を用意しています。

「定食」と「オーダー・ディナー」

皆さんの目的にあった勉学ができるように、大学での履修(定められた科目を習い修めること)の仕組みは高校までとはとかなり違います。

食事といえば「定食」と「オーダー・ディナー」との違いにたとえられます。高校には、普通科・工業科・商業科・理数科などがあります。総合学科などではいくつかの科目を選択することができましたが、基本的にはそれぞれあらかじめ履修する「教科」が決められていて、ほとんどの皆さんはそれを履修してきました。ちょうど、ご飯と味噌汁、それに何種類かのおかずがセットされたいくつかの「〇〇定食」の中からどれかを選んで食べるのに似ています。

大学では、いくつか分類された数多くの「科目」の中から、勉強したいものを自分で選んで履修します。これは、「スープにサラダ、そしてメインディッシュとデザートはどれにしようか」と、メニューからそれぞれを選んで注文して味わう、豪華なディナーに似ています。しかも、もし満腹にならなければ、もう少し品数を増やすこともできますし、肉が好きならばさらに別の肉料理を追加することもできます。大学でも、理系の学部、特に国家資格を得るための課程などは、履修する「専門教育科目」(後述)はほぼ決められていますが、それでもそれ以外の「科目」は自分で選ばなければなりません。

高校までは決められた「教科」を履修すれば「卒業」できました。しかし、大学では人によって履修する「科目」もその数も異なります。そこで、大学では、科目の区分ごとに必要な単位数や科目数、それらを合計した総単位数、さらに在学期間など、定められた条件を満たせば卒業できるようになっています。

それぞれの「科目」には内容や授業時間数によって1から8の「単位数」が決められています。時間制の医学部医学科を除き、卒業に必要とされる単位数は学部学科ごとに定められており、合計124単位から138単位、6年制の薬学部では186単位です。これに足りないとは卒業はできませんが、だからと言って、この単位数を目標にしてはいけません。これはあくまで卒業できる最少の単位数です。これだけでは、あなたの目的を実現するための十分な教育的成果を得られないかも知れません。食べたい料理だけではなく、健康によい料理もしっかり食べるべきです。

大学での履修は、用意された「科目」の中から、科目の区分ごとに決められた単位数に不足しないように注意するとともに、あなたの目的にあわせて「科目」を選択しながら、しかもバランスよく履修していくことが求められます。いくらケーキが好きでもデザートばかり食べていては健康によくないのと同じです。

2

大学で何をどう学ばか

What
and
how
to
study
at the University



大学が提供するメニューの中味

用意されている科目の種類

大学では数多くの「科目」を用意していますが、「科目」はその性格から、「必修科目」（授業科目表に※印がついています）、「選択必修科目」（△印がついています）、「選択科目」に分けられています。

「必修科目」は各専門分野で基礎的な性格をもつ「科目」ですから、その学部学科の学生は必ず履修しなければなりません。1科目1単位でも不足すると卒業できなくなりますから注意が必要です。

「選択必修科目」は指定された複数の「科目」の中から定められた科目数あるいは単位数を選択して履修するものです。したがって、「必修科目」以外は自分自身で選択して履修することになります。

学部によって多少の違いはありますが、それぞれの「科目」はおおむね次の3つに区分されています。

1 共通教育科目

理系の学部の人には文学や政治や経済の知識は不要でしょうか。文系の勉強をしている人は、自然現象や工業技術に無関心でもいいでしょうか。決してそうではありません。将来、自らの優れた専門性をもって社会で活躍する時、専門だけではない幅広い知識や理解力が大きな力を発揮するのです。「共通教育科目」は、学部学科にかかわらず、福岡大学で学ぶ皆さんが、大学で学んだ人として当然身につけておかなければならない幅広い知識を提供するものです。

「共通教育科目」はさらに「総合教養科目」、「外国語科目」、「保健体育科目」に分けられています。

（詳しくは「4 共通教育の学び方」を参照してください。）

2 専門教育科目

皆さんの所属する学部学科が独自に設置している専門の「科目」です。これこそが、皆さんが大学で学ぶ中心となるものであるといえます。当然、卒業するために必要とされる単位数も一番多くなっています。

3 関連教育科目

文系学部では他の学部学科で開講されている専門教育科目の中から、皆さんが所属する学部学科の勉強に関連が深い科目が指定されています。

この他にも卒業に必要な単位にはなりませんが、大学院の科目を履修するものや海外研修プログラム、いろいろな資格をとるための講座や就職のための講座などが数多く福岡大学では開かれています。

（「8 ポーダレスの世界へ羽ばたくために」、「9 将来を意識した学び方」、「10 資格取得へのチャレンジ」を参照してください。）

科目の選択と履修

「福笑い」と「ジグソー・パズル」

さてそれでは、数多く用意された「科目」の中から、どれをどのように選べばいいのでしょうか。「科目」の選択と履修にあたっては、とても大事なことがあります。

皆さんが学ぶそれぞれの学問分野は、さらに多くの専門的な分野の科目が集まってひとつの体系として成り立っています。ですから自分が学ぶそれぞれの「科目」が、その学問体系のどこに位置しているのかを理解しておく必要があります。

正月の伝統的な遊びに「福笑い」があります。目隠しをして、手渡された目・鼻・口などの顔の部分の部分を置いていくゲームです。目隠しをしているのでとてもおかしな顔ができあがります。「科目」の選択と履修は、「福笑い」のように人から渡されたものを、あてすっぽうに並べていってはダメなのです。自分に必要な「科目」を自分で選択し、一つひとつその位置を確かめながら履修していかなければなりません。

これは百何十ピース(単位)かの「ジグソー・パズル」を作るようなものです。パズルを完成させるためには、完成後の全体像が見えていなければなりません。同様に、「科目」の選択も、まずあなたが在学中に学ぶ全体像を描いて、それによって選択し、履修していくようにしなければなりません。



大学で学ぶ全体像を描こう

入学した今、そしてこの一年間が大切

実は、大学で学ぶ全体像を描くということは、前に書いたように、あなたが福岡大学で学ぶ目的を明らかにすることなのです。それによって何を学ばよいかは決まってくるのです。まだ目的が明確でない人は、入学した今、そしてこれからの一年間がとても大切です。入学後におこなわれるガイダンスをよく聴き、専門分野の基礎となる1年次の必修科目をきちんと受講して、一日も早く自分がめざすべきものを見つけましょう。それが見つかれば、それを実現するために何が必要か、どの「科目」を履修するとよいのかが見えてきます。

人まかせ、運まかせの「福笑い」ではなく、あなた自身の手で、あなたただけの「ジクソー・パズル」を卒業までに着実に完成させてください。それが大学で学ぶということです。



大学で学ぶ真の意義

あなたに対する社会の期待

最後にもうひとつ重要なポイントを付け加えておきます。それは、これから大学で学ぼうとする皆さんは、これからの社会を支える大事な人材として成長することが期待されている、ということです。大学で目的をもって多くの知識を学んでも、人間として必要な社会のルールやマナーをしっかりと身につけていなければ、大学で学んだ成果を活かす場さえ与えられないでしょう。

つまり、社会の期待に応えることができる「人らしき人」になることが、皆さんにとって大学で学ぶ本当の意義だということをぜひ理解していただきたいと思います。

